

大人にはなかなか分かりづらい子どもの世界。前回に引き続き、発達心理学が専門の島義弘さんが今どきの子ども事情をひも解きます

大人に見えない 子どもの世界

Vol.14

今月の
テーマ

子どもは好奇心いっぱい の科学者



鹿児島大学 教育学部
講師 島 義弘

【プロフィール】埼玉県出身。名古屋大学大学院修了。2012年鹿児島大学に着任。専門は発達心理学・パーソナリティ心理学。現在1歳児の子育て中。34歳

子どもを見ていると、「不思議だな」と思うことがたくさんあります。おもちゃには脇目も振らず台所の缶詰やプラスチック容器で遊んだり、同じことを何度も繰り返したり…。時には「やめてほしい」と思うこともやります。

例えば、子どもに離乳食を食べさせると、初めはおとなしく食べていますが、しばらくするとスプーンを床に落としたり、お皿をひっくり返したり、ご飯を手でぐちゃぐちゃにし始めます。「一生懸命作ったのに」と悲しい思いをしたお母さんも少なくないでしょう。このような行動は子どもがおなかがいっぱいになって満足した子どもたちは環境探索を始めます。目の前のご飯の手触りや温度を楽しんだり、食器が床に落ちたときの反応を調べたり。私の1歳の子

どももお皿やスプーンを落とす前に目をつぶることがありますが、これから大きな音がすることが分かっているのです。でも、同じ食器でも落ちる速度や角度によっていろいろな音がするので何度でも繰り返します。子どもにとって世の中は分からないことばかり。小さな科学者である子どもは身の回りにあるものは何でも触り、何度も同じことを繰り返して自分なりに自分が生活する世界の法則を確かめています。だから注意をしてもやめません。それが分かっていたからといって何も問題は解決しませんが、子どもの心の世界が分かると、子どもの困った行動を眺めるのが少しだけ楽しくなると思います。